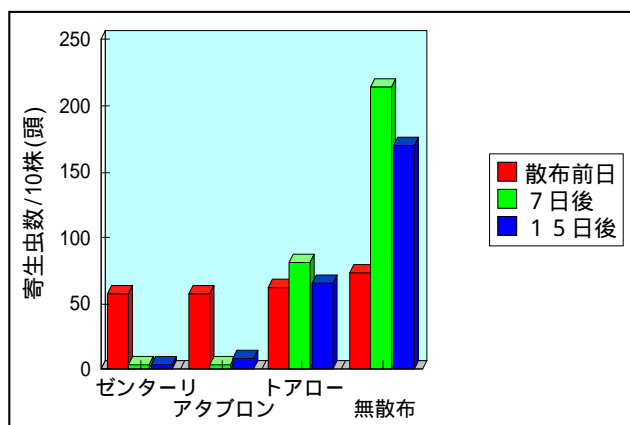


平成11年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤

平成11年度岩手県病害虫防除基準に新規に採用した殺菌剤と殺虫剤のなかで、代表的な農薬の特徴と使用上の留意点について紹介する。



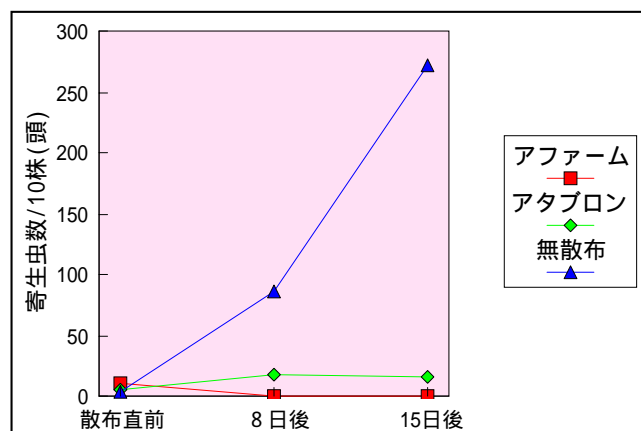
キャベツヨトウガに対する防除効果 (平成7年)

エマメクチン安息香酸剤 (アファーム乳剤) 2,000倍液はコナガに対して、IGR剤 (アタブロン乳剤) 2,000倍液と同等以上の防除効果がある。本剤は新規のマクロライド系化合物であり、他剤との輪番散布により抵抗性コナガ発現回避に有効である。

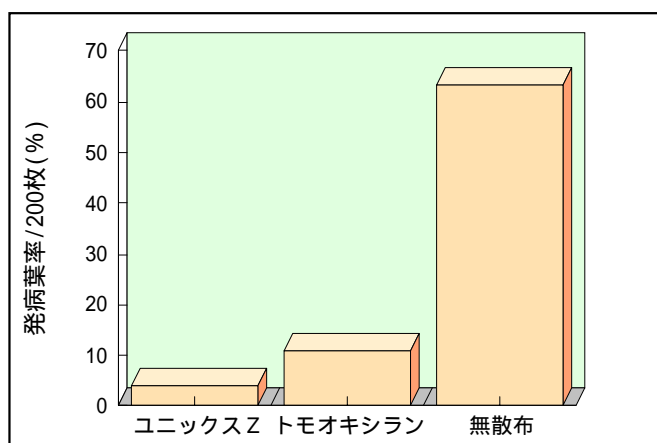
なお、散布時期はコナガとヨトウガが同時発生する6月または8月の中～下旬頃とする。

BT剤は一般にコナガ防除剤として有効であるが、ヨトウガの防除効果は劣る。しかし、新規BT剤 (ゼンターリ顆粒水和剤) 2,000倍液は、既存BT剤 (トアロー水和剤CT) 1,000倍液と比較してヨトウガの防除効果が優り、IGR剤 (アタブロン乳剤) 2,000倍液と同等の防除効果がある。

なお、同様な特性の新規BT剤としてデルフィン顆粒水和剤がある。



キャベツコナガに対する防除効果 (平成10年)



リンゴ斑点落葉病に対する防除効果 (平成6年)

シプロジニル・ジラム剤 (ユニックスZ水和剤) 500倍液は、斑点落葉病に対して既存剤 (トモオキシラン水和剤) 500倍液と同等以上の防除効果がある。新規化合物シプロジニルは浸透性があり、病原菌の発芽管や菌糸の伸長、胞子形成を阻害する。本剤は斑点落葉病の他に多種の病害にも有効なので総合殺菌剤として使用する。ただし、おうちょうには薬害が発生するので注意する。